

平警城時報

日七十

編輯兼發行 岡田弘成
印刷所 加納活版所
發行所 警城時報社
一部金貳圓 一ヶ月金貳拾圓
廣告料 一行十二字 請五十錢
日刊(日曜祝祭日)翌日休刊

平電氣鑄工所の

平署で調査開始

反對理由正當の際は 斷乎處置を講ず

平町堂の前山田文一氏經營の決定の鍵を握る平小鐵道平電氣鑄工所は煙突が低い路線最後の測量は去月十日事や音響の激しい事、深夜以來東鐵建設事務所技手鈴木の迷惑が少なくないので班に分れて兩路線を細密に附近民は連署の上反對陳情亘つて調査中であつたが十書を知らぬに提出した事既五日よりは小名濱方面より報の如くであるが、平署で兩路線の測量することなどは徹底的に調査を開始したり鈴木技手以下十名が吉田反對の理由正當と認めれば屋旅館に宿泊の上向ふ一ヶ斷乎たる處置をとる筈であつた。尙右

測量開始

平小鐵道の測量開始は、尙右に付小名濱町役場より附近地主へ町内並に其他耕地へ測量の爲立入る際便宜取計方通知を發した。

中堅青年百名

矢吹ヶ原に向ふ

修練農場で實習

十六日から四日間西白河郡により自動車數臺に分乗同矢吹ヶ原立修練農場で四十元氣一杯に出發した。講習會は黒田縣社會教育主事補、農務職員及び黒木警備第二隊長、鈴木勿來第二隊長等指導の下に修養訓練され、旁々附近各青年團を視察する由。

印紙税

検査日割

平稅務署管内の今年度印紙稅定期集合検査は左記日割で行ふ事となつたが、受檢物件は昨年七月以降作成に

盗んだ自轉車で

点呼場に駆付く

石川郡石川町生近藤正一(三三)は東京市淺草區馬道通三丁目栗田洋服店に奉公中本籍地の小名濱町で執行される簡點呼に参加のため去る十日歸郷の途につき岩手縣一の關町で藝妓をしのりて、同町に逢ふため一の關町に赴いた。ゆゑ金を費ひ果し十四日伊達郡まで来たが無一文となつたので同郡長岡村字片町面田正雄氏所有の自轉車を窃取しそれに乘つて小名濱町に來たが、十五日の点呼に間にあはず結局窃盜並に陸軍召集規則違反で十六日平署に檢査された。

恩師を招き

懐舊談
好間小學校同窓會は十五日午前十一時から母校に開き、恩師十余名を招き懷舊談を行ひ餘興等で賑はつた。

強盗が入つたと

警察に虚偽の電話

十六日午後五時頃平警署といふ電話があつたので渡邊部長と布施刑事が自轉車で駆けつけて見ると強盗な近の形跡全然なく平穩な近の人々に騒がれて押入で調査した處、平町四丁目新妻浩司(三三)が出鱈目の電話をかけたものと判つた。

子供を背負つて 若妻投身自殺

湯本町向田三四米穀商神谷浩司は多少精神に異常を呈したため十六日午前二時頃生後三十日の乳兒を背負つて後三日の乳兒を背負つて行方不明となつてゐたが、十七日午前五時頃警備村大字上湯長谷長倉坑入口の沼に投身自殺してゐるのを發見。平署から渡邊部長檢視に出張した。

太子堂大祭

平町九品寺太子堂大祭は九月七日(舊七月二十二日)執行されるが、仕掛花火その他で賑はふ。

五圓を盗む

小名濱町古港二八野崎貞行方漁夫白川泰助(三三)は同僚の汽關士の墓口から五圓を抜き取つたので平署に舉げられた。

無銭飲食

小名濱町古港六一土工飯野友太(三三)は同町下町三八料理店會社をなす平署に舉げられた。

郵便車轉落

列車の前に
前日に際進行中の機關車の前にホームから手挽郵便車を轉落したが急停車したため無事であつた。

家に歸れ

親から説諭願
山形縣西置賜郡西根村富彌長男武藤清吉(三三)は昨年七月以來内郷村警備炭礦坑夫として働いてゐたが、郷里の都合により再三歸郷を求めたが歸らぬので此程平署に調査を依頼した處同郷人長谷川武藤正夫(三三)は十六日午前十時頃同坑第二斜坑内で作業中落磐のため重傷を負ひ死亡した。

落磐で惨死

警備村上湯長谷第二警備炭礦採炭夫齊藤正夫(三三)は十六日午前十時頃同坑第二斜坑内で作業中落磐のため重傷を負ひ死亡した。

平の盆に 臨時列車

七夕が過ぎるといよいよ盆だ、若いも、若人も「盆が来たのにヤレ」とばかり船のもどで徹宵踊りぬく年に一度の待望の盆が後二旬で平町地方に訪れる。炭礦方面から、或は村から平町をめぐり入り込む舊盆三日間の人々は自動車で、臨時列車で無慮數方を算し、平町は人々の波である。その中を名物ジャンラ念

御中元の御贈答に 商品券を 御利用下さいませ

ふかや洋服店 電話 203

御中元の贈答には 安心して贈れる「王星石鹼」

使つて後の爽やかさ...その芳香...その品質...その泡立...自他共に許す一流の高級品

化粧箱入 一打 一圓二十錢
三打 一圓六十錢
平町一丁目 電話 五九六

濱三郡賣捌元 菅本飼料店

御贈答洋品の御相談...

常に優良品を取揃へ、お好み通り優美に調製いたします

中野洋品店 電話 五三

